

経営比較分析表（令和5年度決算）

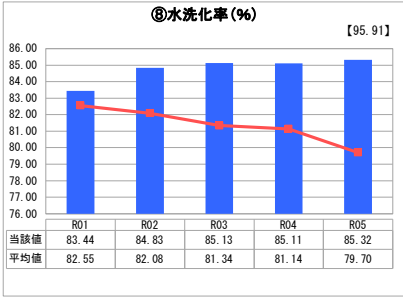
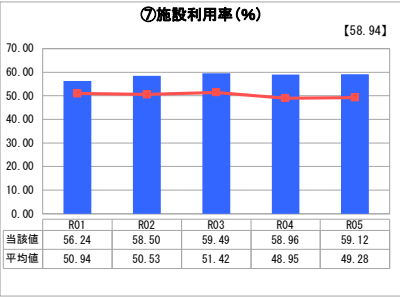
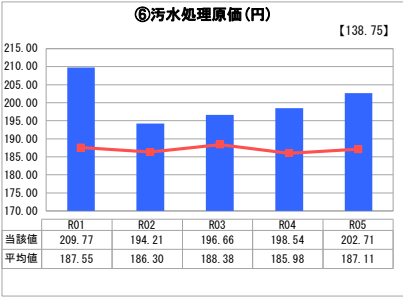
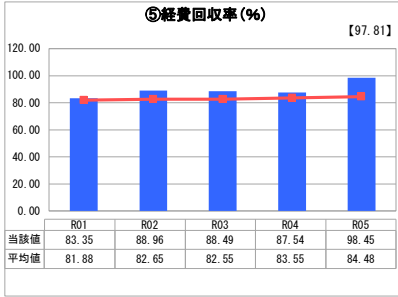
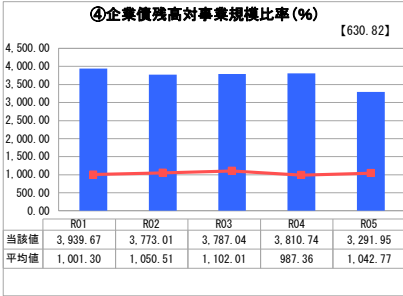
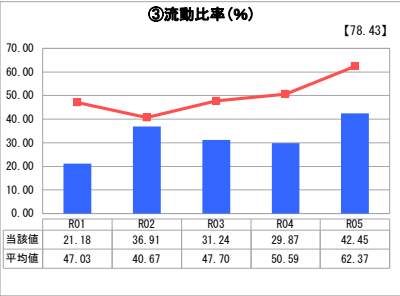
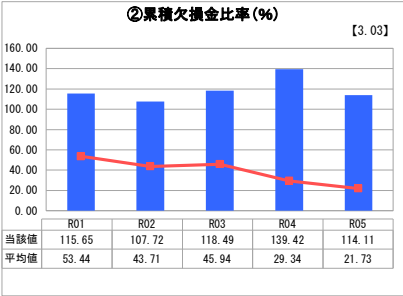
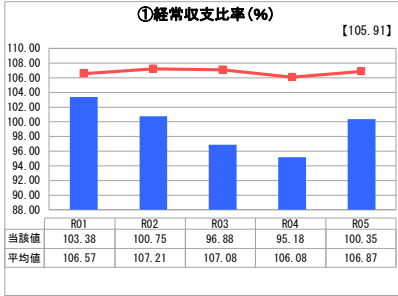
京都府 綾都市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	37.10	52.96	94.79	3,300

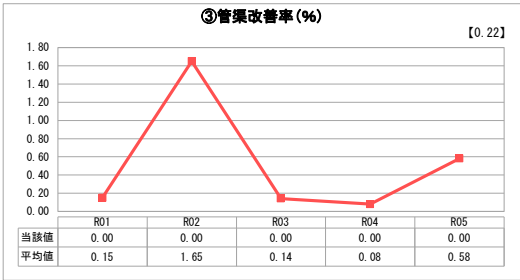
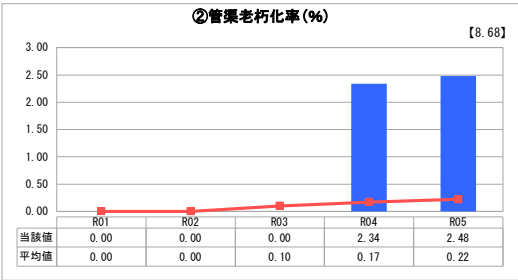
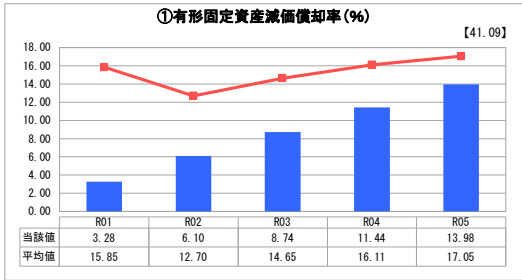
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,526	347.10	90.83
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
16,549	4.74	3,491.35

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 令和3、4年度は経常収支比率が100%を下回りましたが、令和5年4月に使用料改定を行った影響により、100%を上回りました。
- 使用料改定の影響により累積欠損金比率は前年度より減少しましたが、平均よりも高い状態が続いています。
- 使用料改定の影響により流動比率は前年度より増加しましたが、類似団体の平均を下回っており、今後も流動資産の増加を図りつつ流動負債を減少させる経営の方法を考える必要があります。
- 企業債残高対事業規模比率は、使用料改定を行った影響により減少しましたが、類似団体の平均を上回っています。今後も投資規模及び企業債のあり方を検討していく必要があります。
- 経費回収率は、類似団体の平均を上回っていますが、100%の水準までには達していません。使用料改定を行いましたが、引き続き収益の確保及び維持管理費の削減を行います。
- 汚水処理原価についても類似団体と比較して高い状況にあります。投資の適正化、維持管理費の削減の取組が重要であると考えます。
- 施設利用率は整備途中のため、今後、数値が上昇していく見込みです。また、地域の特性上、お盆又は年末年始などは一時的に増大する時期があるため、一定の余裕は必要と考えています。
- 水洗化率については100%にはなっておりませんが、類似団体の平均より高くなっており、今後も拡大した地域への水洗化促進が重要と考えます。

2. 老朽化の状況について

- 管渠は比較的新しい状況です。
- 有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較して低い水準ですが、平成31年4月1日に法適化した影響があり、単純比較が難しい状況です。
 - 管渠は比較的新しい状況ですが、雨水の管渠で法定耐用年数を経過したものが前年度から始めました。日々の点検・維持管理から異常等は確認されていませんが、必要に応じて補修・改修を検討します。
 - 管渠改善率は類似団体の平均を下回っており、カメラ調査においても異常は確認されておらず、管渠の改築更新は実施していません。
- 機器等について、老朽化が進行する中で、長寿命化対策等を検討・実施していく時期を迎えています。

全体総括

本市の公共下水道事業の経営は厳しい状態であると認識しています。特に、汚水処理減価が類似団体の平均値を上回る数値になっており、今後汚水処理原価を減少させるために、徹底した投資の適正化や維持管理費の削減が最重要課題であると認識しています。使用料改定の影響により経常収支比率及び経費回収率は改善しましたが、依然本市の経常収支比率は累積欠損金比率が高いため、今後も経営改善を図ることが重要であると考えます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。